

# パニコロウ染色の施設間差

— 千葉県臨床検査技師会細胞診検査研究班の精度管理の取り組み —

国保直営総合病院君津中央病院

松尾 真吾

## 【目的】

千葉県臨床検査技師会、細胞診検査研究班では 2001 年から実際の検体や標本を用いて染色・判定を行う精度管理を実施していた。2008 年から 2010 年はパニコロウ染色(以下 Pap.染色)について染色性の評価と Pap.染色に関するアンケートを実施した。今回、3 年間の評価を振り返り Pap.染色の染色性が異なる原因をアンケートから類推するとともに 3 年間の成果と課題を報告する。

## 【方法】

凍結保存した喀痰を融解・塗抹しアルコール固定後迅速コーティング剤を塗布した未染色標本と Pap.染色に関するアンケートを精度管理参加各施設に送付。各施設にて Pap.染色を実施。染色標本とアンケート結果を回収。Pap.染色性の評価とアンケート集計を行った。細胞質の染色性は、主に①オレンジ G (以下 OG) 好染細胞 (黄色) ②OG+エオジン (以下 EO) 好染細胞 (橙色) ③EO 好染細胞 (赤色) ④ライトグリーン (以下 LG) 好染細胞 (青緑色) に 4 分類した扁平上皮細胞をカウントした。評価方法は、ヘマトキシリン (以下 HE)、OG、EO、LG の各色素が過不足なく適正に染色されていることとし、精度管理委員の鏡検と細胞質染色のカウントを照合し評価した。

## 【結果】

HE に関しては減点になる施設はなかったが、細胞質染色に関しては施設間差がみられた。減点となった施設は 2008 年が 3 施設(EO 優位 2 施設、LG 優位 1 施設)、2009 年が、8 施設(EO 優位 5 施設、LG 優位 3 施設)、2010 年が、8 施設(EO 優位 3 施設、LG 優位 1 施設、OG 優位 2 施設、色が薄い、色むらがある 2 施設)であった。尚詳細については当日報告する。

## 【まとめ】

3 年連続して Pap.染色性の評価を行った。染色液の継ぎ足し使用を行っていた施設は年を追うごとに減少するなどの成果が得られた。また染色不良の原因がアンケートからでは類推しづらく、より深い調査が必要と思われる施設も存在した。Pap.染色性の良い標本が厳密に決められていない現在、精度管理において染色性の良し悪し判定することは難しい。したがって精度管理が染色性を改善するための情報を提供するとともに、各施設間の比較を行い各施設ごとの染色特性を還元していくことでよりよい染色を目指す一助になればと考える。